福島県立医科大学 学術機関リポジトリ

FUKUSHIMA MEDICAL UNIVERSITY

Title	放射線災害医療学講座(論文・著書・発表等)
Author(s)	
Citation	福島県立医科大学業績集. 29: 337-341
Issue Date	2019-03-19
URL	http://ir.fmu.ac.jp/dspace/handle/123456789/838
Rights	©2019 福島県立医科大学
DOI	
Text Version	publisher

This document is downloaded at: 2024-04-29T00:19:45Z

Fukushima Medical University

微小環境の変化（厳選口演）. 第 25 回日本乳癌学会学術総会; 20170713-15; 福岡.

武藤由美，村田美佳，渡邉祝子，鈴木智博，岩上泰崇，景山亮平，菅野友美，持丸　淳，高野祥直，佐々木栄作. オキサリプラチン投与による血管痛に対するキンカン®の改善効果の検討. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会; 20170727-29; 神戸.

木村礼子，佐々木栄作，野地秀義，大河内千代，岩舘　学，鈴木　聡，中村　泉，鈴木眞一，佐治重衡. 当院におけるレンバチニブの使用経験. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会; 20170727-29; 神戸.

佐治重衡. がん微小環境免疫応答・PARP 阻害；乳癌薬物療法の新たな波（ランチョンセミナー）. 第 23 回日本家族性腫瘍学会学術集会; 20170804-05; 札幌.

佐治重衡. 分子標的治療薬が変えた進行再発乳癌の治療戦略（ランチョンセミナー）. 第 294 回東海外科学会; 20171015; 津.

佐治重衡. Stage0 乳癌に対する薬物療法の将来（パネルデイスカッション 8）. 第 55 回日本癌治療学会学術集会; 20171022; 横浜.

〔特別講演〕

佐治重衡. 乳癌薬物療法のアップデート（教育講演）. 第 15 回日本臨床腫瘍学会学術集会; 20170727-29; 神戸.

放射線災害医療学講座

論　　文

〔原　著〕

Ohba T, Hasegawa A, Kohayakawa Y, Kondo H, Suzuki G. Estimation of thyroid equivalent doses during evacuation based on body surface contamination levels in the nuclear accident of FDNPS in 2011. EPJ Web of Conferences. 201709; 153:08009.

Ohba T, Hasegawa A, Kohayagawa Y, Kondo H, Suzuki G. Body Surface Contamination Levels of Residents under Different Evacuation Scenarios after the Fukushima Daiichi Nuclear Power Plant Accident. Health Physics. 201709; 113(3):175-182.

Hibbert K, Engle-Hills P, Abdel-Wahab M, Chhem R, Hasegawa A, Kumagai A, Phluong P. Curriculum as Social Practice: The case of Fukushima. European Journal of Curriculum Studies. 2017; 4(1):556-569.

〔その他〕

長谷川有史. 原発災害体制 さらに構築を. 読売新聞. 20170305; 33.

著　書・訳　書

長谷川有史. 急性放射線障害. In: 福井次矢, 高木　誠, 小室一成 総編集. 今日の治療指針 2017 年版. 東京: 医学書院; 201701. p.1028-1029.

長谷川有史, **松井史郎 監修**. 原子力災害時における被災者とのコミュニケーション〔Internet〕. 東京: 赤十字原子力災害情報センター; 201704. Available from:
http://ndrc.jrc.or.jp/infolib/cont/mst/G0000001nrcarchive/000/072/000072967.pdf

研究発表等

〔研究発表〕

Koike M, Nemoto M, Ohba T, Yamada C, Hasegawa A. Analysis of Potential Factors Associated with Anxieties over Radiation Exposure for Establishment of Semi-Custom Risk Communication. Scientific Underpinning for Restoration from a Radiation Disaster(第 1 回国際シンポジウム放射線災害からの復興を支える科学的基盤); 20170221-22; Hiroshima. Proceedings. 52.

田代雅実, **長谷川有史**, **中島成隆**. 可搬型衛星ブロードバンドシステムを用いた災害時本部通信能力検証. 第 22 回日本集団災害医学会総会・学術集会; 20170213-15; 名古屋. 抄録集. 559.

反町幸太郎, **塚田泰彦**, **中島成隆**, **伊関　憲**, **長谷川有史**, **島田二郎**. 熊本地震による倒壊家具で顔面を受傷し気道狭窄が疑われたが、迅速な搬送にて救命できた 1 例. 第 22 回日本集団災害医学会総会・学術集会; 20170213-15; 名古屋. 抄録集. 614.

佐藤健一, **久保田明子**, **根本真実**, **長谷川有史**. 経時変化をともなう被ばく・被災関連資料のテキスト解析. 第 58 回原子爆弾後障害研究会; 20170604; 広島国際会議場. 抄録集. 30.

小池真菜美, **根本真実**, **大葉　隆**, **佐藤健一**, **山田智恵里**, **長谷川有史**. 除染作業員における放射線に関係する不安のテキスト解析. 福島県立医科大学 サマーポスターセッション; 20170710-15; 福島.

大津留晶, **緑川早苗**, **熊谷敦史**, **長谷川有史**. 医学教育における放射線リスク科学教育の必須化. 第 49 回日本医学教育学会大会; 20170818-19; 札幌.

長谷川有史, **髙橋真菜美**, **根本真実**, **大葉　隆**, **佐藤健一**. 社会的背景の異なる災害対応者における放射線不安の特徴に関する研究　カスタムメイドな災害時コミュニケーションに向けて. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会; 20171024-26; 大阪.

大葉　隆，**長谷川有史**，**高橋真菜美**，**根本真実**，**佐藤健一**．社会的背景の異なる集団への放射線不安の特徴に関する研究　グループカスタムメイドな放射線リスクコミュニケーションに向けて．日本放射線影響学会第 60 回大会; 20171025-28; 千葉. 講演要旨集. 147.

〔シンポジウム〕

Hasegawa A. Assessment of evacuation needs. Consultancy Meeting on Review and Future of Science and Technology Studies (STS) Curriculum in Japan; 20170829-30; Fukushima.

〔特別講演〕

長谷川有史．放射線災害対応. 福島原発作業者に対する放射線教育講習会; 20171114; いわき.

長谷川有史．福島第一原子力発電所事故 急性期における対応の現実. 看護師のための放射線講座　原子力災害時に求められる医療従事者の役割; 20171204; 郡山.

長谷川有史．放射線災害対応. 福島原発作業者に対する放射線教育講習会; 20171226; いわき.

〔招待講演〕

Hasegawa A. Re-establishment of nuclear emergency medical systems in Japan - from the view point of a front-line physician. 15th Coordination Meeting of the WHO REMPAN; 20170702-07; Geneva, Switzerland.

長谷川有史．放射線物質における事故対応と放射線災害医療の実際. 平成 28 年度宮崎大学地域貢献推進事業; 20170202; 宮崎.

長谷川有史．リスクの相場感がわからない！急性期の苦～い経験. 福井大学 緊急被ばく医療総合シミュレーション基礎コース FRESCO (Fundamental Radiation Emergency Simulation Course); 20170311; 福井.

長谷川有史. Archive project from the experience of earthquake and nuclear disaster - Can we learn from the negative experience? -. 科学・技術と原子力科学・放射線・健康に関する社会展望におけるコンサルタント会合（国際展望）; 20170523-24; 広島.

長谷川有史．救急医の考える放射線業務従事者・医療スタッフ・医学生に対する放射線教育. 第 54 回放射線影響懇話会; 20170603-04; 福岡.

長谷川有史．放射線災害医療　あなたならどうする；放射性物質が突然環境に拡散したとき. 平成 29 年度放射線医学オープンスクール; 20170829-30; 柏, つくば. 報告書. 91.

長谷川有史．福島事故と汚染傷病者　過去・現在・未来. 緊急被ばく医療に関わる講演会及び実務セミナー; 20171111; 新潟.

長谷川有史．救急医失格　我々は福島から学べたのか？ 長崎大学 平成 29 年度第 66 回大学院セミナー;

20171213; 長崎.

長谷川有史. 放射線災害医療　影と光. 長崎大学医学部 平成 29 年度後期　環境因子系講義; 20171213; 長崎.

〔その他〕

Nakashima M, Hasegawa A. Session 3; Radiation casualty medicine. Scientific Underpinning for Restoration from a Radiation Disaster; 20170221-22; Hiroshima. Proceedings. vii.

Sulfikar Amir, **長谷川有史**. 福島県立医科大学大学院医学研究科国際医科学　特別講義「HEALING FUKUSHIMA」上映会; 20170317; 福島.

長谷川有史. 緊急被ばく・汚染傷病者について考える. 山梨大学医学部 春休み実習; 20170405; 山梨.

長谷川有史. 放射線と放射能の基礎知識. 平成 29 年度原子力防災基礎研修; 20170605; 福島.

長谷川有史. 福島原子力発電所事故の概要と医療対応反省と課題を中心に. 山形大学 平成 29 年度先進的医科学専攻博士前期課程講義　放射線防護学; 20170607; 山形.

長谷川有史. 放射線と放射能の基礎知識. 平成 29 年度原子力防災基礎研修; 20170612-13; 福島.

長谷川有史. 福島原子力発電所事故における健康影響　放射線による直接影響と間接影響を比較しながら. 山形大学 平成 29 年度先進的医科学専攻博士前期課程講義　放射線防護学; 20170614; 山形.

長谷川有史. 国から求められている当院の役割　原子力規制庁委託 2 センターの業務. 福島県立医科大学 救急科抄読会; 20170710; 福島.

長谷川有史. 国から求められている当院の役割　診療放射線技師に求められていること. 福島県立医科大学 放射線部説明会; 20170713; 福島.

長谷川有史. 救命センターの初期治療にチャレンジ！ 福島医大オープンキャンパス実習体験・施設見学; 20170715; 福島.

長谷川有史. 福島県立医科大学附属病院と原子力災害医療　これまでとこれから. 福島県立医科大学附属病院有識者視察; 20170718; 福島.

長谷川有史. 新たな原子力災害医療体制における福島県立医科大学附属病院の役割と体制. 福島県立医科大学附属病院職員全体講習; 20170725; 福島.

長谷川有史. 国から求められている当院の役割　看護師に求められていること. 福島県立医科大学 看護部説明会; 20170801; 福島.

長谷川有史. 放射線の基礎知識と健康への影響. 平成 29 年度放射線の健康影響等に関する応用研修; 20170802; 郡山.

長谷川有史. 霧と摩擦の中から 福島医大で震災患者対応にあたった一医師として. 放射線災害医療サマーセミナー; 20170821-26; 福島, 楢葉. 報告書. 11.

長谷川有史. 福島県立医科大学の取組み　これまでとこれから. 平成 29 年度地域原子力災害時医療連携推進協議会（福島県立医科大学担当）; 20170911; 東京.

長谷川有史. 放射線の基礎知識と健康への影響. 平成 29 年度放射線の健康影響等に関する応用研修; 20170913; 福島.

長谷川有史. あたらしい原子災害医療体制　現状と課題. 平成 29 年度東北ブロック DMAT 参集訓練研修会; 20171001; 福島.

長谷川有史. 「変化に対応する力」（最近出会った文章から）. 福島県立医科大学第 7 回光翔祭広報用パンフレット; 20171014; 福島.

長谷川有史. 放射線の基礎知識と健康への影響. 平成 29 年度放射線の健康影響等に関する応用研修; 20171019; 南相馬.

長谷川有史. 来るべき原子力災害に向かって～救急医はどのように対処すべきか？～司会. 第 45 回日本救急医学会総会・学術集会; 20171024-26; 大阪. 講演集. 16.

長谷川有史. 実践研修（原子力災害時の医療）　講義 原子力災害医療に対する医療機関の対応／講義 原子力災害時における対応事例／実習 原子力災害医療実習. 原子力規制庁委託 原子力災害時の医療に係わる研修講師養成講座; 20171118-19; 福島.

長谷川有史. 福島県立医科大学附属病院と原子力災害医療　これまでとこれから. 原子力規制委員会 伴委員による高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センター視察; 20171120; 福島.

リハビリテーション医学講座／リハビリテーションセンター

論　　文

〔原　著〕

二村美也子, 藤井正純, 小林俊輔, 市川優寛, 高橋　勝, 大井直往, 齋藤　清. 左側頭頭頂葉腫瘍術後に出現した右上肢優位の道具使用困難を呈した一例. 臨床神経心理. 201712; 28:17-24.